

[共通]

第1章 事業沿革

- 1 箕面市の地理的条件と特色
- 2 箕面市の歴史と都市形成への過程
- 3 水道事業の概要
- 4 下水道事業の概要
- 5 流域下水道の概要
- 6 下水道計画区域・管渠網図
- 7 猪名川流域下水道処理区域図
- 8 安威川流域下水道処理区域図

1 箕面市の地理的条件と特色

箕面市は、京阪神大都市圏のほぼ中央となる大阪府の北西部に位置しており、東は茨木市、西は池田市、南は豊中市と吹田市、北は豊能町と兵庫県川西市に接しています。

市域は、明治の森箕面国定公園を含む緑豊かな北部の山林地域と南部の平坦地域に大きく区分できます。また、大阪の都心からは約20 km圏内の距離に位置し、国道423号（新御堂筋）、国道171号をはじめとした道路網が整備され、平成19年5月には、箕面有料道路も完成し利便性の向上が図られました。阪急箕面線、北大阪急行線などとのバスネットワークも整備されており、恵まれた交通条件を備えた住宅都市です。

中心位置

北緯34度49分25秒
東経135度28分23秒
東西7.1 km
南北11.7 km
面積47.90 km²

2 箕面市の歴史と都市形成への過程

箕面市の歴史は、明治22年(1889年)の町村制施行により箕面、萱野、止々呂美、豊川の4村が誕生したことに始まります。昭和23年(1948年)に箕面村が箕面町となり、萱野村、止々呂美村を合併し、さらに昭和31年(1956年)には豊川村を合わせ、大阪府内24番目の市として市制を施行しました。

箕面市の近代的な開発は、明治31年(1898年)に箕面の滝を中心とした大阪府営箕面公園の開設、明治43年(1910年)の箕面有馬電気軌道（現在の阪急箕面線）が敷設されたことに始まります。

その後、昭和45年(1970年)の万国博覧会の開催を契機に国道423号の開通など都市基盤の整備や民間企業、住宅・都市整備公団（現在の独立行政法人都市再生機構）などによる住宅開発が進みました。著しい産業経済の進歩とめまぐるしい社会環境の変化の中で、大都市大阪市の20キロメートル圏内に属する本市も人口の流入が多く、公害、自然環境の破壊、地価の高騰など数多くの都市問題が発生してきました。

そこで、上水道などの生活基盤整備をはじめ将来に向けた施策について、無秩序な地域開発を抑制の上、秩序ある都市整備を推進し、公共下水道の積極的な整備や都市計画公園の建設など生活環境整備を図り、住みよいまちづくりをめざしてきました。

3 水道事業の概要

箕面市の上水道は、箕面町時代の昭和25年(1950年)4月に箕面町議会において上水道の町営化が議決され、「箕面・西小路地区」に深井戸を水源とした水道施設を整備、昭和26年(1951年)4月から給水を開始し、平成13年(2001年)4月には通水開始50周年を迎えました。

第1次拡張事業において昭和34年(1959年)に大阪府営水道の受水を受け、以降、第5次に至るまで順次拡張事業に取り組み、給水人口の増加や生活様式の変化に伴う水需要の増加に対応し、計画的に給水規模を拡張して安定給水を図ってきました。

上水道の水源は、自己水源としての箕面川表流水、桜ヶ丘地下水及び半町地下水と、大阪広域水道企業団水に区分されます。（大阪市を除く府内42市町村で構成された大阪広域水道企業団が、大阪府水道部

に代わり、平成23年(2011年)4月から、本市を含む42市町村の水道事業者に水道用水を供給しています。)

北部の止々呂美地区は、昭和34年(1959年)に下止々呂美地区、昭和42年(1967年)に上止々呂美地区においてそれぞれ簡易水道を整備し、上・下止々呂美簡易水道事業として水道水を供給してきましたが、平成23年(2011年)4月に大阪広域水道企業団から給水を受け、森町地区の北部簡易水道事業とともに、上水道事業に統廃合しました。

4 下水道事業の概要…… 「6 下水道計画区域・管渠網図」を参照

箕面市の公共下水道事業は昭和42年度(1967年度)に着手して、昭和44年度(1969年度)から供用開始を行い、その後順次整備を図り、平成12年度(2000年度)末には止々呂美地区の整備を完了して、ほぼ全市域で下水道が利用できるようになりました。

箕面市の公共下水道は分流式で、雨水と汚水を別々に排水しています。汚水は、大阪府が建設した処理場や池田市の処理場で浄化されています。

下水道計画は、市域を3地域に分割し、「猪名川流域関連公共下水道」及び「安威川流域関連公共下水道」並びに「池田処理区公共下水道」として計画されています。雨水排水は、10年確率の降雨量(10年に1度の確率の降雨で、1時間当たり約50ミリメートルの降雨量になります。)を近接する河川に放流するよう計画しています。

平成15年(2003年)4月1日からは地方公営企業法の全部を適用して企業会計方式の経理を行い、事業コストの明確化など経営の効率化に取り組んでいます。

①猪名川流域関連公共下水道(原田処理区)

計画区域は市街地の西部、中部地域(1,187ヘクタール)及び北部地域(425ヘクタール)で、下水は豊中市原田にある原田水みらいセンターで浄化されて猪名川に放流されています。

全体計画面積	1,612 ha
下水道法認可面積	1,585 ha
供用開始面積	1,319 ha
管渠延長	408,957 m

②安威川流域関連公共下水道(中央処理区)

計画区域は市街地の東部地域で、下水は茨木市宮島にある中央水みらいセンターで浄化されて安威川に放流されています。

全体計画面積	705 ha
下水道法認可面積	654 ha
供用開始面積	615 ha
管渠延長	180,487 m

③池田処理区公共下水道

計画区域は市街地の西端にある瀬川一丁目、下水は池田市神田にある池田処理場で浄化されて猪名川に放流されています。

全体計画面積	9 ha
下水道法認可面積	9 ha
供用開始面積	9 ha
管渠延長	4,723 m

5 流域下水道の概要

①猪名川流域下水道（原田処理区）…「7 猪名川流域下水道処理区域図」を参照

昭和40年(1965年)12月20日、豊中市、池田市、箕面市（以上大阪府）、伊丹市、川西市（以上兵庫県）が豊中市に集まり、猪名川流域下水道の調印式が行なわれ、ここに全国で初めての府県境にまたがる流域下水道が正式に発足し、大阪府が施行主体となり事業が開始されました。その後、計画の見直しが行なわれ、昭和46年度(1971年度)に宝塚市、猪名川町、豊能町、平成15年度(2003年度)に尼崎市を加え、7市2町の新しい猪名川流域下水道が誕生しました。

■計画内容及び実施状況

全体計画		平成29年度末	
処理面積	5,518 ha	整備面積	4,364 ha
計画区域内人口	371,020 人	整備人口	423,434 人
管渠延長	41,720 m	管渠延長	41,720 m
処理能力	184,310 m ³ /日	処理能力	201,940 m ³ /日
<関連都市> 豊中市、池田市、箕面市、豊能町、伊丹市、川西市、 宝塚市、猪名川町、尼崎市 （上記数値は、大阪府分のみ）			

*数値は、大阪府下水道統計(平成31年3月)より引用。

②安威川流域下水道（中央処理区）…「8 安威川流域下水道処理区域図」を参照

昭和42年(1967年)2月、吹田市、高槻市、茨木市、摂津市及び箕面市の5市で、府内3番目の流域下水道として誕生し、大阪府が施行主体となり、昭和43年(1968年)4月から事業が開始されました。

流域下水道の維持管理を行うために、昭和44年(1969年)11月に構成市で「安威川流域下水道組合」を設立し、その後昭和45年(1970年)12月に淀川右岸流域下水道（島本町加入）を含めて、「安威川、淀川右岸流域下水道組合」に改組し、昭和63年(1988年)3月には豊中市が加わりました。

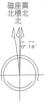
大阪府による建設と維持管理の一体的、効率的な管理を実施するため、平成20年(2008年)3月31日をもって組合は解散となり、業務は大阪府に引き継がれました。

■計画内容及び実施状況

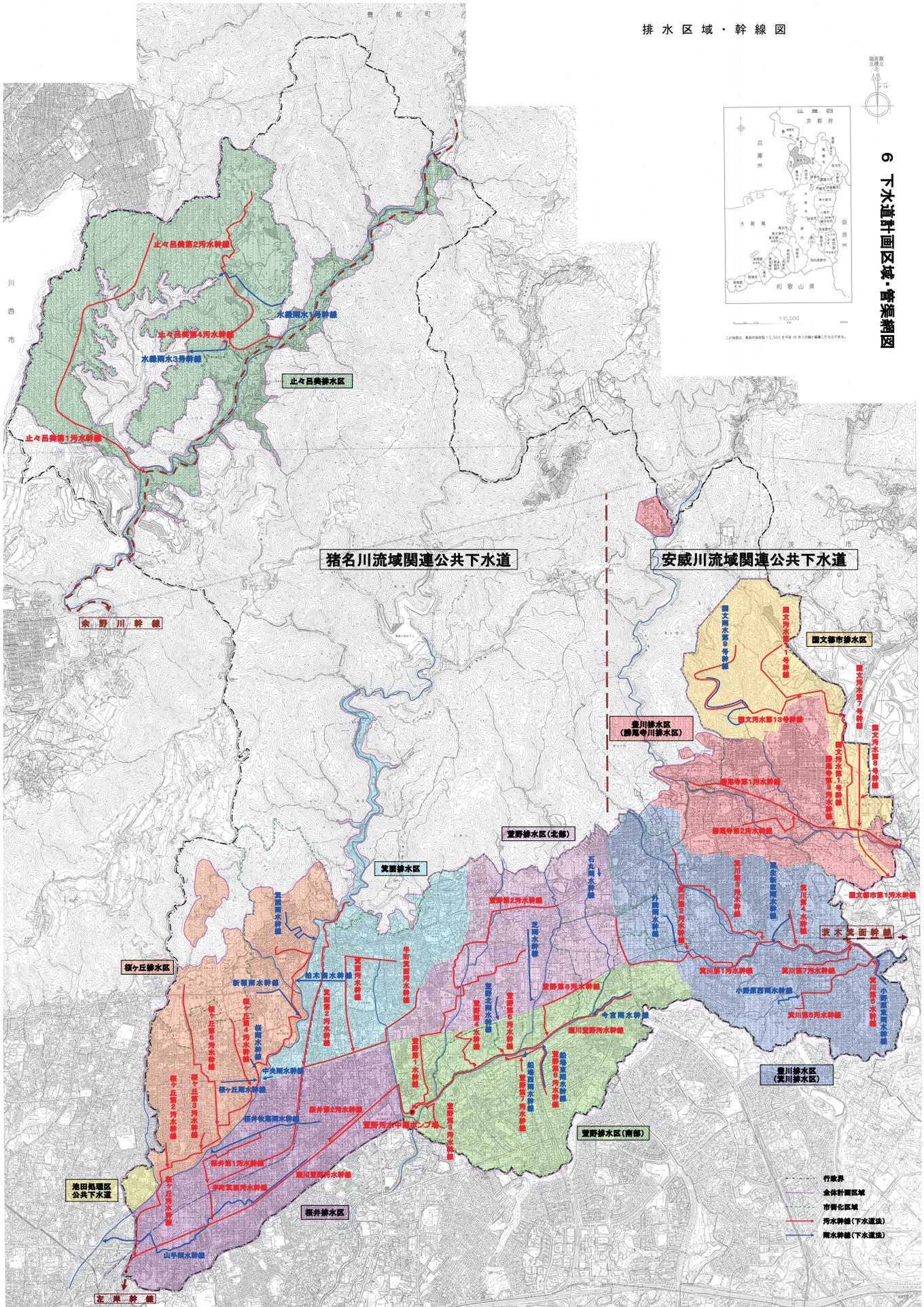
全体計画		平成29年度末	
処理面積	8,753 ha	整備面積	6,369 ha
計画区域内人口	583,720 人	整備人口	577,521 人
管渠延長	54,490 m	管渠延長	54,490 m
処理能力	329,430 m ³ /日	処理能力	256,110 m ³ /日
<関連都市> 茨木市、吹田市、高槻市、摂津市、箕面市、豊中市			

*数値は、大阪府下水道統計(平成31年3月)より引用

排水区域・幹線図

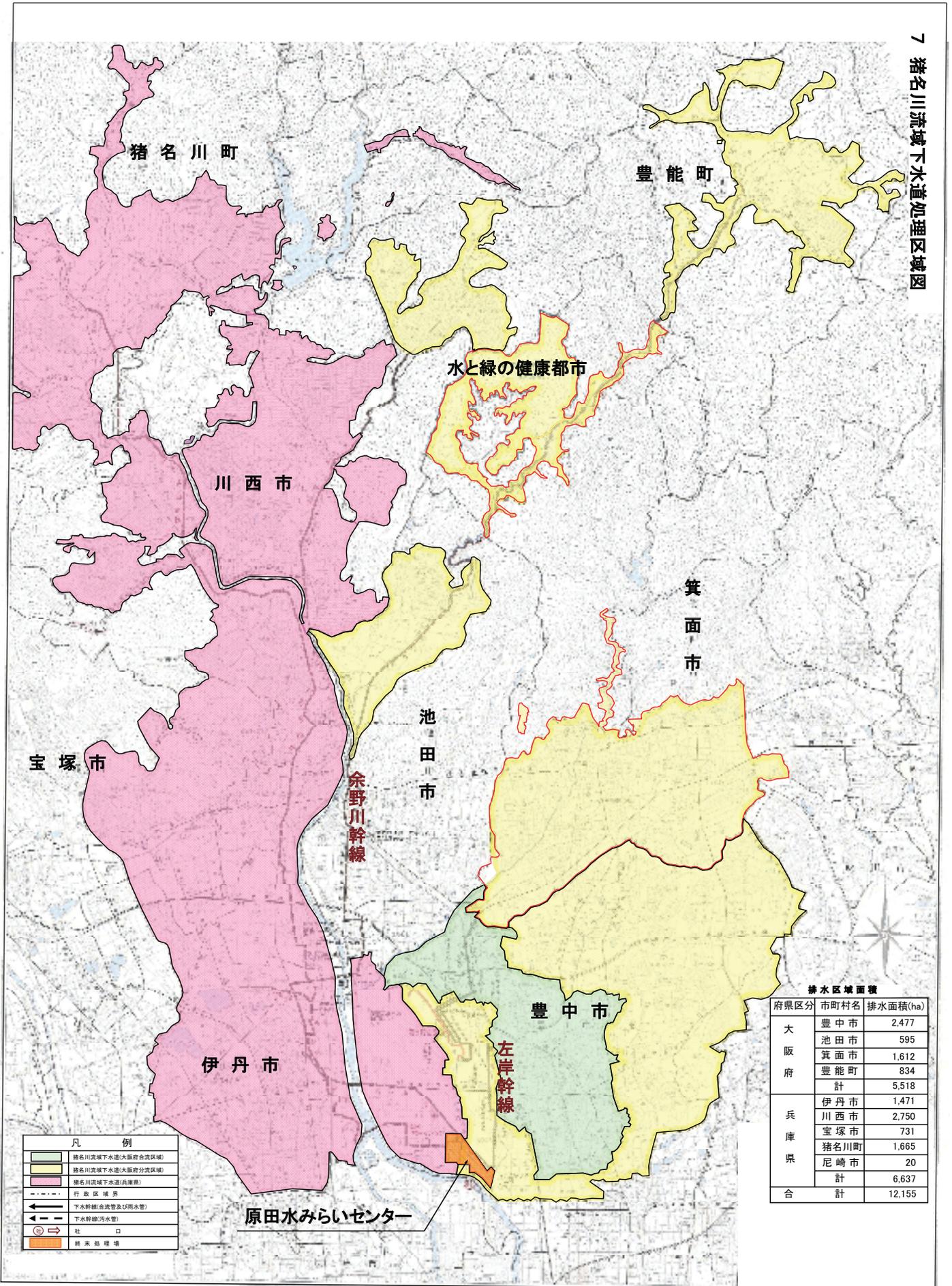


6 下水道計画区域・管渠網図



- 行政界
- 下水道計画区域
- 市街化区域
- 污水幹線(下水道法)
- 雨水幹線(下水道法)

7 猪名川流域下水道処理区域図



凡 例

	猪名川流域下水道(大阪府合流区域)
	猪名川流域下水道(大阪府分流域)
	猪名川流域下水道(兵庫県)
	行政区域界
	下水道幹線(合流管及び雨水管)
	下水道幹線(汚水管)
	社 口
	将来処理場

排水区域面積

府県区分	市町村名	排水面積(ha)
大阪府	豊中市	2,477
	池田市	595
	箕面市	1,612
	豊能町	834
	計	5,518
兵庫県	伊丹市	1,471
	川西市	2,750
	宝塚市	731
	猪名川町	1,665
	尼崎市	20
	計	6,637
合 計		12,155

